



就学義務

保護者向け情報

お子さまにとって学校教育はたいへん重要ですが、中でも規則正しく登校することは、学力の向上および将来の進路や人生の選択肢を増やすために必要不可欠です。NSW州公立学校は保護者の方々と協力し、児童・生徒の規則正しい登校を奨励および支援します。毎日の登校はお子さまの学習を促進し、また他の児童・生徒たちとの関係構築および維持を助けます。

保護者に法的責任はありますか？

ニューサウスウェールズ州では、6歳から17歳（卒業・退学が認められる最低年齢）までのすべての子供たちは義務教育の対象となっています。1990年教育法では、保護者は義務教育年齢の児童を必ず学校に入学させて定期的に登校させること、またはNSW州教育基準局 (NSW Education Standards Authority) に登録のうえホームスクーリングを行う義務があります。

入学後、子どもたちは登校が定められた日はすべて登校することが義務付けられています。

定刻登校の重要性

時間通りに登校し、授業に出席することは以下の重要な利点をもたらします。

- 朝早い時間帯に予定された、重要な学習活動の機会を生かすことができる
- 時間厳守および規則正しい生活の重要性を学ぶことができる
- 授業が始まる前に友だちと挨拶を交わす時間ができる
- 授業の中断を最小限に抑えることができる

遅刻は、「部分的な欠席 (partial absence)」として記録されます。児童・生徒が遅刻する際は、保護者による説明が必要となります。

学校を休まなければならない場合はどうすれば良いですか？

場合によっては、欠席が必要と認められることもあります。正当な欠席の理由には、以下が含まれます。

- 病気になった場合、または感染性の疾患にかかった場合
- 変更できない診療予約がある場合
- 公認の宗教的な行事・祭典に参加する必要がある場合
- 例外的または緊急な家庭の事情 (葬儀への参列等)

欠席後は、その理由を7日間以内に口頭または書面で学校に提出する必要があります。ただし、欠席から2日間以内に学校に連絡がなかった場合、学校はその理由等について話し合うため保護者の方に連絡する場合があります。

提出された理由が正当でないと判断された場合、学校長はその説明を承認しないことがあります。この場合、お子さまの欠席は不当なもの (unjustified) と記録されます。このような決定が下された場合、学校長は決定およびその理由について保護者の方と話し合いの場を設けます。

児童・生徒が頻繁に、または長期にわたり欠席し、その理由が病気と説明された場合、学校長は診断書等の書類の提出を求める場合があります。また学校長は、お子さまのヘルスケアプラン作成に協力するため、医療専門家と話して必要な情報を入手する許可を保護者の方に求める場合もあります。この依頼が拒否された場合、学校長はお子さまの欠席を不当なものとして記録することがあります。

旅行

家族旅行は、できる限り学校の休み期間中に行うことが奨励されています。学期中にお子さまと旅行に出かける必要がある場合は、学校長にご相談ください。長期休暇の申請 (Application for Extended Leave) が必要となる場合もあります。旅行関連の欠席は出席簿に休暇として記録され、年間の総欠席日数に加算されます。

状況により、児童・生徒は50日間を超える期間の旅行について遠隔教育 (distance education) に登録できる場合があります。遠隔教育の資格については、学校長とお話いただく必要があります。

私の子どもは登校しようとしません。どうすれば良いのでしょうか？

お子さまが不登校になった場合は、早急に学校長にご相談ください。出席率改善に向けたストラテジーの一環として、学校の学習支援チーム、またはお子さまに適した支援ネットワーク等が紹介される場合があります。さらに学校長は、ホームスクール連携プログラム (Home School Liaison Program) により出席率改善計画 (Attendance Improvement Plan) を作成する場合があります。

承認されない欠席が続く場合はどうなるのでしょうか？

重要: 義務教育年齢の児童・生徒が無断欠席または不当な欠席を繰り返す場合、教育省はさらなる措置を講じる場合があります。

このような場合には、以下のような措置が実施される場合があります。

- 義務教育会議 (Compulsory Schooling Conferences)

保護者の方には、お子さまと一緒に義務教育会議に参加いただくようお願いする場合があります。当会議は、お子さまが規則正しく登校するために必要なサポートの認識・作成を支援します。学校、保護者の方および支援機関は“Undertakings” と呼ばれる計画を共同で作成・合意し、お子さまの登校を支援することになります。

- 少年裁判所への申請 — 義務教育命令 (Compulsory Schooling Order)

お子さまの登校が不十分なままの状態が続く場合、当省は少年裁判所に義務教育命令の適用を申請する場合があります。少年裁判所の判事は、義務教育会議の開催を命じる場合があります。

- 地方裁判所での訴追

学校および当省の職員は、保護者の方々と協力し、お子さまの規則的な登校を妨げている問題の解決に尽力いたします。義務教育命令への違反が生じた場合、保護者の方に対してさらなる法的措置が地方裁判所で講じられる可能性があります。裁判の結果、社会奉仕命令または罰金が科される場合もあります。

私の子どもは、何歳から卒業または退学できるのでしょうか？

ニューサウスウェールズ州のすべての児童・生徒は、Year 10 またはそれに相当する教育課程を終える必要があります。Year 10の後、および17歳に達するまで、多様で柔軟な学校教育のオプションが揃っています。

パートナーシップによる取り組み

NSW州教育省は、児童・生徒およびご家族の方々とのパートナーシップによる取り組みが、規則的な登校を支援する最善の方法と認識しています。

お子さまが人生における大切な学習機会を逃すことのないよう、保護者の皆さまには何とぞご協力お願い申し上げます。

電話通訳サービス

さらに詳しい情報をご希望の方は学校までお問い合わせください。ご連絡の際に通訳をご希望の方は131 450番をダイヤルし、日本語をご指定のうえ、学校に電話をつなぐようオペレーターにお伝えください。通訳が電話を通して会話をお手伝いします。このサービスは無料でご利用いただけます。